

22PO-pm388

タバコに関する薬剤師の意識調査（4）

○田中 三栄子¹, 小本 健博², 設楽 拓哉², 手倉森 智哉², 川原 千郁³, 小松 健一¹, 川嶋 恵子¹ (¹北海道科学大学, ²ココカラファインヘルスケア, ³ナカジマ薬局)

【目的】2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて公共スペースの禁煙化が進む一方で、加熱式タバコ市場は急速に拡大している。そこで、薬剤師に「加熱式タバコの認知度」について調査を行った。

【方法】調査は、北海道の病院、調剤薬局、薬品メーカーに勤務している薬剤師を対象に『タバコに関する調査』を実施した。調査方法は無記名式、多項選択法とし、調査期間は2018年6月であった。調査内容は、基本属性（性別、年齢）、勤務先、実務経験年数、喫煙率、喫煙者への意識、公共施設の禁煙、受動喫煙、三次喫煙、加熱式タバコについてである。データ解析は、エスミ Mac 統計解析 V2 を用いて解析を行なった。

【結果】薬剤師 216 名のうち、有効回答数は 209 名 (96.8%) であった。基本属性は、男性 117 名 (56.0%)、女性 92 名 (44.0%)、20 代 55 名 (26.3%)、30 代 57 名 (27.3%)、40 代 57 名 (27.3%)、50 代 27 名 (12.9%)、60 代 12 名 (5.7%)、70 代 1 名 (0.5%) であり、勤務先は、病院 64 名 (30.6%)、調剤薬局 120 名 (57.4%)、薬品メーカー 25 名 (12.0%) であった。実務経験 10 年以上のベテラン薬剤師 115 名 (55.0%)、喫煙率 29 名 (13.9%)、周囲に喫煙者がいる場合は近づきたくない 109 名 (52.2%)、公共施設は禁煙 104 名 (49.8%) であった。受動喫煙を正しく理解している 24 名 (11.5%)、三次喫煙の理解度 90 名 (43.1%)、加熱式タバコは身体に影響を与える 125 名 (59.8%) であった。

【考察】オシャレでスマートな加熱式タバコの促進販売が過激である昨今、「薬剤師の禁煙を徹底する」だけではなく、受動喫煙・三次喫煙防止に対する啓発活動を積極的に行い、タバコの有害性についての正しい知識を得ることが重要である。